7R
サイズが
大きく
なりました

藤井だいすけ県政通信　Vol.04［2020年8月発行］

Seven Rivers

富山県議会をわかりやすく。

セブン・リバーズの定期閲読の申し込みは、右のQRコード or お電話で！

https://www.fujiidaisuke.com/
電話：076-471-7119

［ セブン・リバーズとは？ ］

富山平野を流れる、七大河川のこと。3000mの立山から深海1000mの富山湾に流れこむ急峻な七大河川の治水対策が、明治時代の富山県議会の大きな政治課題だった歴史を踏まえ、藤井だいすけ県政報告のタイトルにいたしました。

中面には
マンガで読める
県政レポートが
付いてます

コロナを乗り越えた先の未来を見据えて

東京オリンピックで盛り上がるはずの2020年の夏は、新型コロナウイルスが原因で静かな猛暑の夏になりました。

医療介護の現場は崩壊の一歩手前まで負荷がかかり、ステイホームで地域経済は停滞。休校によって児童・学生から学び競い合う機会を奪うことにも。

猛暑でも止まらない新型コロナの強力な感染力を考えると、コロナと共存する社会生活（with コロナ）は1年以上継続するでしょう。この間、感染を過剰に恐れて移動の自由を失ってしまうと社会が回らない。とはいえ、経済優先主義だと高齢者等の弱者を命の危険に晒してしまいます。

コロナとの長い戦いを乗り越える（beyond コロナ）ためにも、今一度冷静に考えたいのです。それは、人間社会にとって最も大切なことは、〝未来に何を残すか〟ではないかと。そのためにも恐怖心に打ち克って、今こそ変革を進めるべきと私は考えます。

発行日／令和2年8月28日　発行所／自由民主党富山県議会議員会

トピック その1

自民党富山県議会議員会の1期生が「反転攻勢への英断を」の政策提言

1期生議員「令和の会」。左から庄司、安達、川上、八嶋、種部、藤井、澤崎、大門、瀬川、針山（敬称略）

新型コロナの猛威により あらゆる社会活動が停滞

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年4月7日、政府は東京都など7都府県に対し緊急事態宣言を発令。その後対象地域が全国に拡大され、17日付けで富山県でも緊急事態措置が実施されることに。不要不急の外出は自粛となり、都道府県をまたぐ移動は極力NG、3つの密（密閉・密集・密接）のリスクのある場所には休業の要請が。人の移動による感染拡大を止めるべく、大幅な社会活動の停止が実行されました。

県議会活動も、移動を伴うもの、3密のリスクがあるものは全て中止となり、議員としていったい何ができるのか、自問自答する日々が続きました。

自民党会派所属の1期生10人がリモートで結集

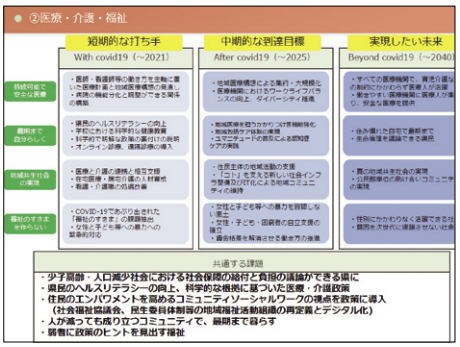
そんな中、昨年4月に初めて県議会に当選した同期議員の10人（自分たちで、令和の会、と名付けました）が、オンライン上で集まり近況報告を行っていたときに「コロナはすぐには終息しない。コロナと共存する社会を営みつつ、コロナ終息後の未来への準備を今のうちから考える必要があるのではないか」との意見が。県議会に参加して1年しか経っていない新人ではあるものの、10人よれば文殊の知恵。しかも元市議会議員から、国会議員秘書、医者、金融、介護経営者、広告メディア業など経歴もさまざま。「それなら1期生でオリジナルの政策提言書を作ろうじゃないか！」と意気投合。オンラインでのミーティングを重ねながら、とりまとめた提言書が「反転攻勢への英断を」となりました。

議員の基本は、政策を考え、議論し、実行すること

5月29日に自民党会派役員へ提出し、地元新聞社にも取り上げられましたが、実際に提言の内容を反映した政策が県議会の6月定例会でさっそく討論されることに。私を含めて1期生議員が一般質問および予算特別委員会で6名登壇しましたが、「反転攻勢への英断を」の政策を踏まえて、各議員が質問を重ねていくことができたので、非常に内容の濃い議論ができたと感じました。政策を考え、議論し、実行する。そんな議員としての基本をステイホーム期間中に学べたことは本当に貴重な経験でした。引き続き実践してまいります。

戦略の策定・実施にあたっての基本的な考え方

- 選ばれる富山県のために、SDGsやESGの視点での政策実現
- 政策のフェーズ（局面）を3段階に分けて戦略化・見える化
  withコロナ（～2021年）⇒afterコロナ（～2025年）⇒beyondコロナ（～2040年）
- 科学的なエビデンス（根拠）や、データ分析に基づく合理的な政策実現
- 先を行く政策のための
  プロフェッショナル人材の活用とガバナンスの強化
- 県民へのわかりやすいメッセージと丁寧な説明
- 県行政手続きのデジタル化推進
- コミュニティを大切にした市町村への積極的支援



6分野においてwith/after/beyondの段階に分けて政策を展開。具体的な政策を知りたい方は、d-fujii@fujiidaisuke.comまでご連絡を。

トピックその2

コロナ不況により生活が苦しくなった人への支援

コロナ不況は今後2～3年は覚悟すべきとの声も。すでにコロナ不況で収入が減り生活が苦しくなった方はもちろん、今後もしかしたら……と不安な方もコロナ対策の支援を知っておくことは大切です。

最も早く金銭的支援が受けられるのが「生活福祉資金貸付制度」。「休業」などで収入が減少し一時的な資金が必要な人は最大で20万円を、「失業」などで生活の立て直しが必要な人は、単身なら月に最大15万円を、2人以上の世帯なら月に最大20万円を、それぞれ原則3か月、所得に関係なく無利子で借りられます。詳しくは最寄りの社会福祉協議会にお問い合わせください。

その他、公共料金支払いの先延ばし、納税の猶予や減免など、生活に密着した細かな措置がたくさんあります。自治体やメディアのまとめサイトをチェックしておきましょう。

『こんなときはどんな支援が？』

NHKの新型コロナ特設サイト内ページ。給付金の最新情報が随時更新されるだけでなく、家賃や税金・公共料金等の情報がまとまっている

『J-Net 21 富山県（補助金・助成金・融資情報）』

J-Net21は中小企業基盤整備機構が運営する、中小企業とその支援者等のためのポータルサイト。都道府県ごとに情報がまとめられている

トピックその3

富山県議会の広報紙を試験発行。2種類を比較

より開かれた議会にするための一環として2種類の広報紙「県議会だより」と「TOYAMAジャーナル」を6月にテスト発行。富山県議会基本条例に基づき、議会改革推進会議が開かれておりますが、その中で「広報紙を試行する」検討がなされてきました。編集長経験のある私は1期生で唯一、「広報編集委員」に選出されています。

今回の試行では、中身はほぼ同じ（令和2年2月定例会の報告）ですが、伝え方や切り口を変えた「A／Bテスト」方式をとりました。実際の印刷物は、県内のある地域に限定した新聞折込での配布のみ。どうしても見たい！という方は、左のQRコードでを読み込んで、ぜひチェックしてください。

右が新聞風の「議会だより」。左が雑誌風の「TOYAMAジャーナル」。どちらがお好みですか？

「県議会だより」

「TOYAMAジャーナル」

令和2年6月定例会 代表質問項目

自民党会派を代表して鹿熊正一議員が下記23項目について代表質問を行いました。

I 新型コロナウイルス感染症 再燃への備えについて

- 新しい生活様式の普及
- 迅速なPCR検査体制の整備等
- 医療提供体制の充実・強化
- 施設内感染対策の徹底
- 病院・診療所の経営支援等

II 新型コロナウイルス感染症 がもたらした諸課題について

1. 雇用の維持と事業の維持
- 雇用・経済への影響等
- 子育て世帯への支援
- 事業者と雇用に影響を受けた人とのマッチング等による雇用対策
- 新型コロナウイルス対策M&A
- 農林水産省の経営支援と消費拡大

2. 教育・文化活動への支援等
- 学校の長期休校の影響、再休校への備えとICT教育の一層の普及
- 全国高等学校総合体育大会の中止等を受けた対応
- 芸術文化への支援
- 子どもと女性の安全対策

III 新型コロナウイルス感染症を 契機とした県政課題について

- 県税の減収見込みと財政運営
- 事業の見直し並びに予算の組み替え
- 北陸新幹線の敦賀延伸への影響
- 公共工事の事業量確保と早期発注等
- 地域医療のあり方の見直し
- 観光復活に向けた取組みと観光戦略の見直し
- 5G・高速大容量インターネット通信網の整備促進
- With コロナ、After コロナの社会経済のあり方に関するビジョンの策定

IV 秋の県知事選挙について

- 秋の県知事選挙

会一般質問をマンガでダイジェスト！

新型コロナウイルスにより緊急事態宣言が発令され、医療介護や経済及び教育現場に多大な影響が出てから最初の定例会で藤井大輔が登壇。6 月 18 日の模様をマンガ風にダイジェストでお届けいたします。

1

会議を開きます。藤井大輔君

上田英俊
富山県議会議長

一般質問とは、議員個人が県の事務の執行状況や将来に対する考え方などの報告および説明を、県知事や幹部職員などに求め、県が県民のための適切な県政運営を進めているかを議員がチェックするもの。藤井大輔は 2 月定例会に引き続き、今年 2 度目の登壇となる。

2

一般質問は、答弁時間を除き 20 分以内で、一括質問と分割質問のどちらかを選ぶ。

3

■ 藤井の分割質問は 3 つ

❶ with コロナ（2021 年までの短期的施策について）
❷ after コロナ（2025 年までの中期的到達目標について）
❸ beyond コロナ（2040 年までの実現したい未来について）

4

with コロナでの藤井大輔の主な主張

- 濃厚接触者の情報を介護現場（主にケアマネジャー）に伝えるべきでは？
- 大阪や北海道のように県民にわかりやすい情報発信はできなかったのか？
- ステイホーム期間に見守りができず認知症や虚弱が悪化。その対策は？
- 医療看護介護の在宅サービスを支える専門職への物質的・精神的支援は？
- 県庁職員等の公務員のテレワークや働き方改革は進んでいるのか？

マンガ風でレポート

コロナ対策を質問！

© 藤井かのん

9

afterコロナの藤井大輔の主な主張

- コロナ危機をチャンスと捉え、東京一極集中是正から地方分散型社会への推進を
- 県内中小企業の経営支援において、特に次の成長のための投資を支援する施策は？
- 富山県が５Ｇ後進県にならないよう、５Ｇインフラ網を県内全域に整備すべきでは？
- 県庁が率先してデジタルトランスフォーメーションを進め見本となるべきでは？

ドドォーン

石井富山県知事

11

知事からの回答

- 災い福と転じて富山県を発展させてきた先人にならい「危機をチャンスに」していきたい
- 県単独の中小企業支援として予算額を７億円増額し、デジタル革命枠も用意した
- ５G 基地局の基盤となる県内全域の光ファイバー網整備に18 億円の予算を計上
- 県庁内にデジタル推進の横断プロジェクトチームを発足。有識者会議も設置していく

藤井はメモ魔なので議会発言を全て記録している。このときは、あまりの知事の積極姿勢に思わずメモの手が止まってしまったほど

14

beyond コロナの藤井大輔の主な主張

- 東京都では元ヤフー社長が副知事となり、98%の行政手続きをデジタル化すると宣言している。富山県でも世界中で奪い合いとなっているデータサイエンス人材の確保に動かなければ手遅れになる
- デジタル行政化を進めるときに、主人公は「県民」である。デジタル行政化は単なる手続きの簡略化ではない。あらゆる人材が活躍する富山県の基盤を作ることがゴールなのでは？

答弁に納得いかない場合、再質問を最大２回まで行うことができる。ちなみに藤井はこれまで行ったことはない

先ほど、濃厚接触者は患者ではないとのこと。仮にケアが必要な高齢者であっても、ケアマネには県から情報が入らないという認識で良いのかを、確認したかったのだ。

県は個人情報保護を重視せざるを得ない。家族も含めた現場の情報連携に丸投げされているように正直思えた。

今回の一般質問を終えて感じたのは、新型コロナ対策への石井県知事の本気度。財政に詳しいがゆえに、新しい施策への予算計上には慎重な傾向があったが、６月補正予算だけで357億円以上を拠出。県独自の医療介護や中小企業支援施策もあり、さらに5G基地局の基盤や庁内インフラ改革等の未来への積極投資も見られた。とはいえ、まだまだ県民の健康や暮らしを守るには不足している面もあるので、今後も県庁と県議会が一体となって新型コロナの危機を乗り越えていかなければ、と強く感じた次第。頑張ります！

お知らせ ❷ ｜ 藤井大輔県政通信「セブン・リバーズ」定期閲読

藤井大輔県政通信「セブン・リバーズ」は、県議会での藤井大輔の活動報告を中心に年３回程度発行しています。定期閲読を希望される方は、下記 QR コードもしくはお電話でお申し込みください。

https://www.fujiidaisuke.com/
電話：076-471-7119

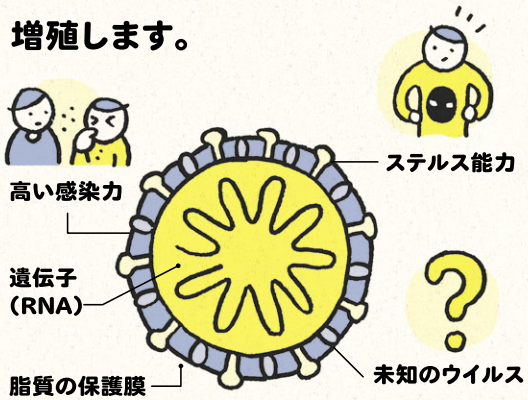
お知らせ ❶ ｜ 富山県議会インターネット議会中継

今回の答弁の模様は、全てインターネットで観ることができます（60分程度）。下記 URL もしくは QR コードからアクセスしてください。

https://toyama-pref.stream.jfit.co.jp/?tpl=play_vod&inquiry_id=1064

［保存版］with コロナ時代における新しい生活様式の基礎知識

ウイルスは自分では増えません。他の生物の細胞に寄生し、増殖します。

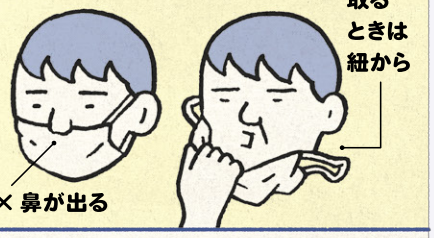


COVID-19
新型コロナウイルス感染症

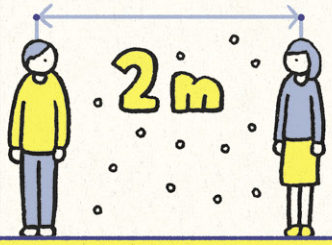
眼・鼻または口の粘膜から侵入します。

✕ 殺菌剤、抗生物質は役に立ちません。

✕ マスクは正しく使いましょう。

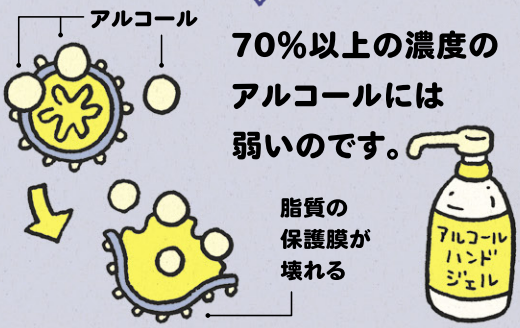


飛沫感染を防ぐため人と2m以上の距離をとりましょう。



✕ 強いお酒を飲んでも役に立ちません。

70%以上の濃度のアルコールには弱いのです。



何気なく触れているものに気をつけましょう。

✕ 部屋を締め切らないようにする。

爪の間にウイルスは隠れます。

手洗いはせっけん等をたっぷり泡だて、20秒以上念入りに！

流水でしっかりと流すこと。

油断大敵

イラスト：モドロカ　編集：藤井大輔　監修：種部恭子（医師）